| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7110 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 崎川　修 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて，その人間論的，社会哲学的基盤を探求する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解し説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 人間社会における実践上の困難の解決について、臨床哲学的視座から考察することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業時の発表の内容及び授業態度（50%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（50%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

第 1 回：ケアの思想の問題領域について

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 2 回：ケアの概念について

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 3 回：現象としてのケア

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 4 回：知覚と欲求

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 5 回：意志と行為

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：経験の構造 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 7 回：参加者の発表と討論（ケアの本質） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 8 回：受苦の人間学 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 9 回：ケアと宗教性 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 10 回：実存哲学におけるケア（ハイデガー） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 11 回：ケアと自己実現（メイヤロフ） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 12 回：ライフサイクルとケア（エリクソン） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 13 回：ケアからドゥーリアへ（キテイ） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 14 回：参加者の発表と討論（ケアの可能性） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 15 回：総括 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| 試験等 |
| --- |
| 期末レポートを提出してもらう。 |
| 試験のフィードバックの方法 |
| |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 参加者と相談の上決定する。 |
| オフィスアワー |
| オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。 |
| 連絡先 |
| sakikawa@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7115 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 崎川　修 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて，その人間論的、社会哲学的基盤の上で，ケアが向かう社会的課題としての「喪失と悲嘆」について考察し，それらに向き合うためのケア実践の具体的なあり方を追求する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解し説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 人間社会における実践上の困難の解決について、臨床哲学的視座から考察することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業時の発表及び授業態度（50%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（50%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：喪失と悲嘆の人間学 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 2 回：死の概念と文化 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 3 回：死生学の展開 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 4 回：悲嘆のプロセスとその多様性 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 5 回：グリーフケアの方法論 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：終生期ケアとスピリチュアルケア | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 7 回：参加者の発表と討論（死に向き合う） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 8 回：トラウマの人間学 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 9 回：脳科学とトラウマ | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 10 回：〈魂〉の哲学 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 11 回：沈黙の意味論 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 12 回：身体性と語り | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 13 回：ケアとナラティヴ・コミュニティ | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 14 回：参加者の発表と討論（スピリチュアルケアの可能性） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 15 回：総括 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| 試験等 |
| --- |
| 期末レポートを提出してもらう。 |
| 試験のフィードバックの方法 |
| |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 参加者と相談の上決定する。参考書は適宜紹介する。 |
| オフィスアワー |
| オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。 |
| 連絡先 |
| sakikawa@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 女性学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7120 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 山下　美紀 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

この授業では、1960年代の第二波フェミニズム以降、学際的な学問分野として登場してきたジェンダー研究を基盤において、現在私たちを取り巻いている諸問題の解決策を考えます。1970年代に男女の差異と不平等といった男性中心主義への批判と抵抗を目指して女性学が誕生し、近代社会における「女」の領域と位置付けられ、科学的な分析の対象とされてこなかった領域に目が向けられるようになりました。本講義はこれらの流れをふまえ、現時点でのジェンダー研究の立ち位置を確認し、ジェンダー視点での研究の射程の広がりを理解することを目指します。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | フェミニズムの歴史を知り、説明することができる | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | ジェンダー研究の意義を説明することができる | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | 現在のジェンダー問題の状況を把握し、その解決に資する案を提示することができる | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業および討論への取り組み　30% | 1／2／3 |
| 2 | 課題・レポート　30% | 1／2／3 |
| 3 | 最終レポート　40% | 1／2／3 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| １．ガイダンス | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい。 | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ２．フェミニズム運動の歴史 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ３．女性学の登場 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ４．男性学の登場 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ５．ジェンダー研究の射程 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |

| | | |
|---|---|---|
| ６．法律とジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ７．社会制度とジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ８．労働とジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ９．アンペイド・ワーク | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １０．ワーク・ライフ・バランス | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １１．ジェンダーギャップ指数 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １２．日本の社会保障制度（育児） | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １３．日本の社会保障制度（介護） | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １４．日本の社会保障制度（年金） | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １５．総括 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |

試験等

最終レポート

試験のフィードバックの方法

課題レポートについて、コメントを付して返却する

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

参考文献や資料はその都度紹介・配付する。

オフィスアワー

授業中に指示する
随時、メールで質問を受け付ける

連絡先

miki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

自分の常識を相対化するため、グループディスカッションやグループワークを行うことがある
現代社会のジェンダー問題を知るために、学外での実習を行うことがある

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 女性学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7125 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 山下　美紀 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

この授業では、1960年代の第二波フェミニズム以降、学際的な学問分野として登場してきたジェンダー研究を基盤において、ジェンダー秩序を可視化すること、権力関係とそれを生み出す社会構造を読み解くことを目指します。ジェンダーやセクシュアリティへの関心が高まりつつある現代において、新しいジェンダー・ポリティクスを学び、実社会へ発信する力を養います。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 「標準」や「正常」がどのような力学のなかで構築されてきたのかを説明することができる | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | ジェンダー問題に関連する時事的課題に目を向け、批判的に考察することができる | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | 他者への想像力を大切にするとともに、俯瞰的な視野から自分の意見を述べることができる | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業および討論への取り組み　30% | 1／2／3 |
| 2 | 課題・レポート　30% | 1／2／3 |
| 3 | 最終レポート　40% | 1／2／3 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| １．ガイダンス | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ２．フェミニストアプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ３．分析概念としてのジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ４．ジェンダーの力学 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ５．性暴力・DV | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |

| | | |
|---|---|---|
| ６．デートDV | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ７．多様な性 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ８．性的マイノリティーとジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| ９．ハラスメント | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １０．Me Too 運動 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １１．メディアとジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １２．教育とジェンダー | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １３．アンコンシャス・バイアス | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １４．ジェンダー・ポリティクス | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| １５．総括 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |
| 事後学修 | 講義終了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、ジェンダー研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回４時間程度） | （各回４時間程度） |

試験等

最終レポート

試験のフィードバックの方法

課題レポートについて、コメントを付して返却する

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

参考文献や資料はその都度紹介・配付する。

オフィスアワー

授業中に指示する
随時、メールで質問を受け付ける

連絡先

miki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

自分の常識を相対化するため、グループディスカッションやグループワークを行うことがある
現代社会のジェンダー問題を知るために、学外での実習を行うことがある

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会倫理学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7130 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 崎川　修 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

「いのち」のケアをめぐる社会倫理学的な問題を，いわゆる「生命倫理」を起点としつつ，その哲学的基盤や思想史的背景をひも解きながら考察する。それらの問題の構造的契機である「生の統治」と，その非人間性に注目しつつ，より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を，カトリックの社会教説のうちに探っていく。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 生命倫理の諸問題についての知識を，その構造的契機や社会背景と結び付けて理解し説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 統合的な人間理解に基づいて、生命倫理にかかわる諸課題への応答可能性について主体的に考察することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業時の発表および授業態度（50%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（50%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：「いのち」のケアをめぐる倫理的問い | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 2 回：生命倫理の問題圏 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 3 回：統治される生と死 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 4 回：出生前診断と人工妊娠中絶 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 5 回：人工生殖技術の諸問題 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：クローン技術の諸問題 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 7 回：参加者の発表と討論 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 8 回：反出生主義とは何か | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 9 回：生の否定の思想史 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 10 回：生殖技術と反出生主義 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 11 回：グリーフケアと「いのち」の倫理 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 12 回：終生期ケアの諸問題 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 13 回：生と死の尊厳をめぐって | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 14 回：参加者の発表と討論 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 15 回：総括 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| 試験等 |
| --- |
| 期末レポートを提出してもらう。 |
| 試験のフィードバックの方法 |
| |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 受講者と相談の上決定する。 |
| オフィスアワー |
| オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。 |
| 連絡先 |
| sakikawa@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会倫理学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7135 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 崎川　修 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

「いのち」のケアをめぐる社会倫理学的な問題を，それらの問題の構造的契機である「生の統治」と，その非人間性に注目しつつ，カトリックの社会教説のうちに，より統合的な「環境倫理」の視点から「人間的生」の可能性を受け取り直す可能性を探っていく。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 生命倫理の諸問題についての知識を，その構造的契機や社会背景と結び付けて理解し説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 統合的な人間理解に基づいて、生命倫理にかかわる諸課題への応答可能性について主体的に考察することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業時の発表および授業態度（50%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（50%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

授業予定一覧　　事前・事後学修内容と時間

第 1 回：「いのち」のケアの射程

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 2 回：カトリック社会教説における「いのち」

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 3 回：回勅「フマーネ・ヴィテ」（教皇パウロ 6 世）

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 4 回：回勅「いのちの福音」（教皇ヨハネ・パウロ２世）

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

第 5 回：回勅「ラウダート・シ」（教皇フランシスコ）

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：「ラウダート・シ」を読む（第 1 章） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 7 回：「ラウダート・シ」を読む（第 2 章） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 8 回：「ラウダート・シ」を読む（第 3 章） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 9 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」前半部） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 10 回：「ラウダート・シ」を読む（第 4 章） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 11 回：「ラウダート・シ」を読む（第 5 章） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 12 回：「ラウダート・シ」を読む（第 6 章） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 13 回：参加者の討論と発表（「ラウダート・シ」後半部） | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 14 回：環境思想と生命倫理～「くらし」からみる「いのち」 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |
| 第 15 回：総括 | | |
| 事前学修 | 事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。 | 2時間 |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

〈必携書〉
『回勅　ラウダート・シ』教皇フランシスコ，カトリック中央協議会，2016
その他，適宜授業内で紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。

連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会福祉学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7140 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 杉山　博昭 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

本授業では、日本キリスト教社会事業の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。キリシタン時代から、戦前の動向まで、カトリック・プロテスタントの社会事業実践、社会事業思想、教会の果たした役割などを考察していく。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 近代における、カトリック・プロテスタントの果たしてきた意義を説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 近代社会の発展のなかでの社会事業の意義を理解し現代的意義を説明できる。 | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | 社会事業の歴史を踏まえて、現代の社会福祉を分析できる。 | 知識・技能／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 期末レポートで評価する　50% | 1／2 |
| 2 | 討論での発言や授業への取り組みで評価する　50% | 3 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| １　キリスト教社会事業史研究の意義 | | |
| 事前学修 | キリスト教と社会福祉の関係について、文献を用いて理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 現在の社会福祉と歴史研究との関連について考察し、整理する。 | 2時間以上 |
| ２　キリスト教と社会福祉の歴史的構造 | | |
| 事前学修 | 社会福祉とは何か、関連文献によって把握するとともに、キリスト教との関連について考察する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 社会福祉とは何か、関連文献を読みこなしたうえ、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| ３　キリシタンと慈善事業 | | |
| 事前学修 | キリシタン時代の慈善事業の概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | キリシタン時代の慈善事業についてどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| ４　近代初期のカトリック慈善　修道会による諸活動について | | |
| 事前学修 | 明治期のカトリック慈善事業について概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 明治期のカトリック慈善事業についてどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| ５　プロテスタント慈善事業の展開　近代思想と慈善 | | |
| 事前学修 | 明治期のプロテスタント系の社会事業の概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 明治期のプロテスタント系の社会事業について、具体的な事例を用いて、どう評価すべきか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |

| | | |
|---|---|---|
| 6　初期キリスト教慈善事業の思想 | | |
| 事前学修 | 明治期のキリスト教慈善事業の思想について、概要を把握する。 | 2時間以上 |
| 事後学修 | 明治期のキリスト教慈善事業の思想について、当時の文献を用いて自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 7　キリスト教施設の展開 | | |
| 事前学修 | 近代におけるキリスト教社会事業施設の概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 近代のキリスト教社会事業の施設についてその実践の意義や評価について、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 8　日清戦争後のキリスト教慈善事業 | | |
| 事前学修 | 日清戦争後のキリスト教慈善事業について概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 日清戦争後のキリスト教慈善事業について、どう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 9　日露戦争後の感化救済事業とキリスト教　内務省の宗教統制の影響 | | |
| 事前学修 | 日露戦争後の感化救済事業とキリスト教について概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 日露戦争後の感化救済事業とキリスト教について、内務省の宗教統制の影響を踏まえて、どう評価すべきか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 10　植民地におけるキリスト教社会事業　台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業 | | |
| 事前学修 | 日本の植民地となっていた台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業について概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 日本の植民地となっていた台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業について、国家の政策とも関連させて、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 11　大正デモクラシーとキリスト教社会事業 | | |
| 事前学修 | 大正デモクラシーにおけるキリスト教社会事業の概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 大正デモクラシーにおけるキリスト教社会事業の意義と限界について、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 12　世界恐慌期のキリスト教社会事業の動向　救護法の影響・社会事業の経営問題 | | |
| 事前学修 | 世界恐慌期のキリスト教社会事業について、救護法などの政策とも関連させて概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 世界恐慌期のキリスト教社会事業について、救護法などの政策や国民生活の実態も踏まえ、どう評価すべきか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 13　キリスト教の社会事業教育　ソーシャルワークの導入と専門教育 | | |
| 事前学修 | キリスト教の社会事業教育にどのようなものがあり、　ソーシャルワークの導入や専門教育についての役割を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | キリスト教による社会事業専門教育の役割について、どう評価すべきか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 14　戦時下のキリスト教社会事業　戦時下の苦難と、その一方での戦争協力の問題 | | |
| 事前学修 | 戦時下のキリスト教社会事業について概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 戦時下のキリスト教社会事業について、戦争協力の問題など戦争との関係を踏まえて、どう評価すべきか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 15　戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論　戦時厚生事業論とキリスト教 | | |
| 事前学修 | 戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論について概要を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論について、戦争の問題や戦時下のキリスト教会の動向も踏まえて、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |

試験等

レポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

社会福祉学特論Ⅱで説明する。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

〈必携書〉
日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2014, ミネルヴァ書房

オフィスアワー

火曜　2限

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会福祉学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7145 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 杉山　博昭 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

本授業では、日本キリスト教社会福祉の第二次大戦後の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。カトリック・プロテスタントの社会福祉実践、社会福祉思想、教会と社会福祉の関係などを考察していく。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 福祉国家政策の中でのキリスト教社会福祉の意義を説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 各教派の特徴を説明し、それぞれの社会福祉への貢献を議論することができる | 知識・技能／主体性 |
| 3 | 今後の社会福祉政策において歴史を踏まえた提言をすることができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 期末レポートで評価する　50% | 1 |
| 2 | 授業態度・討論への参加状況・発言内容で評価する　50% | 2／3 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| １　第二次大戦後のキリスト教社会事業 占領期の動き | | |
| 事前学修 | 占領期の社会福祉の動きについて概要を整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 占領期に生じた社会福祉の課題について、キリスト教社会事業との関連でまとめる。 | 2時間以上 |
| ２　人権問題とキリスト教　被差別部落・ハンセン病、障害者などの人権課題への取り組み | | |
| 事前学修 | さまざまな人権問題にキリスト教がどう関与したか、概要を整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 人権問題へのキリスト教の関わりについて、評価出来る点と批判すべき点の双方について、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| ３　高度成長期のキリスト教社会福祉　福祉国家政策との関連 | | |
| 事前学修 | 高度成長期のキリスト教社会福祉の動向について整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 高度成長期のキリスト教社会福祉の動向についてどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| ４　カトリック社会福祉の動向　福祉国家政策・専門化をめぐって | | |
| 事前学修 | 戦後のカトリック社会福祉について、その沿革や動向を整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 戦後のカトリック社会福祉について、どう評価できるか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| ５　社会活動・医療活動の動き　人権問題・ハンセン病など | | |
| 事前学修 | 戦後のキリスト教社会福祉のなかで、社会問題への対応や医療課題にどう向き合ったか、概要を整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 戦後のキリスト教社会福祉が対応した社会活動について、どう評価できるか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |

| | | |
|---|---|---|
| 6　福祉改革期のキリスト教社会福祉　介護保険、NPO の広がりにどう対処したのか | | |
| 事前学修 | 1990年代以降のキリスト教社会福祉が、とりわけ介護保険制度など新たな制度のなかでどう動いたか整理する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 1990年代以降のキリスト教社会福祉の動きについて、どう評価すべきか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 7　阪神・淡路大震災とキリスト教 | | |
| 事前学修 | 阪神・淡路大震災の被災の概要をまとめ、震災時のキリスト教の対応を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 阪神・淡路大震災時のキリスト教の対応について、どう評価できるか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 8　各教派の歩みと福祉実践（１）カトリックの教理と社会福祉の関係 | | |
| 事前学修 | カトリックと社会福祉の関係について整理して理解する。 | 2時間 |
| 事後学修 | カトリック社会福祉について、どう評価できるか自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 9　各教派の歩みと福祉実践（２）長老派の神学と社会福祉　組合派がなぜ多くの実践を生んだのか | | |
| 事前学修 | プロテスタントの長老派や組合教会の社会福祉への姿勢や実績を把握する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 長老派や組合教会の社会福祉の実績についてどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 10　各教派の歩みと福祉実践（３）聖公会・メソジストの社会福祉の特徴 | | |
| 事前学修 | 聖公会やメソジズト社会福祉への考えや実績について把握して理解する。 | 2時間 |
| 事後学修 | 聖公会やメソジストの社会福祉の実績について、どう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 11　各教派の歩みと福祉実践（４）バプテスト・その他は社会福祉にどう貢献したか | | |
| 事前学修 | バプテストやその他のプロテスタントの教派の社会福祉への考えや実績を把握し理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | バプテストやその他の教派の社会福祉の実績についてどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 12　キリスト教団体と社会福祉　諸団体の概要と業績 | | |
| 事前学修 | 日本の社会福祉の関係するキリスト教団体について整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | 社会福祉に関連するキリスト教団体について、その活動をどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 13　キリスト教社会福祉の養成教育　国家資格化のなかでのキリスト教の役割 | | |
| 事前学修 | キリスト教系の学校での社会福祉の専門教育の現状を把握し理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | キリスト教系の学校での社会福祉専門教育についてどう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 14　キリスト教社会福祉の課題と展望　少子高齢化・貧困の広がり | | |
| 事前学修 | キリスト教社会福祉が直面している社会福祉の諸課題について把握し理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | キリスト教社会福祉が現代社会においてどのような役割を果たすべきか、。自分の見解をまとめる。 | 2時間以上 |
| 15　まとめ-少子高齢化時代におけるキリスト教社会福祉の役割 | | |
| 事前学修 | 少子高齢化における社会福祉の課題について整理して理解しておく。 | 2時間 |
| 事後学修 | これからキリスト教社会福祉がどのような役割を果たすべきか構想し、具体的にまとめる。 | 2時間以上 |

試験等

レポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

他の授業を活用する。または、個別に研究室に来訪してディスカッションすることを歓迎する。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

〈必携書〉
日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2012, ミネルヴァ書房

オフィスアワー

火曜　2限

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 地域福祉学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7150 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 山本　浩史 | | | | |
| 時間割備考 | 院生と協議の上で設定 | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | １講義 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

本講義では、現代日本における福祉課題を踏まえ、今日的な社会福祉のあり方や地域福祉の推進方法について考えます。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 発見学習 |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | (1) 現代日本社会における様々な福祉課題やそれらの背景に関して説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | (2) 今日的な福祉理念および理念と社会福祉の考え方に関して説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 3 | (3) 地域福祉実践および方法に関して説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 4 | (4) 地域自立生活を支える様々な制度に関して説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 5 | (5) 社会福祉／地域福祉推進を支える様々な機関・施設・団体に関して説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 本科目は、授業内容に関する知識の修得、深化のレベルを、日頃の学修姿勢、発表内容等などから判断する。評価基準は、授業開始日に説明される。 | 1／2／3／4／5 |
| 2 | 課題レジメ資料40% | 1／2／3 |
| 3 | 発表・発言等の参加態度60% | 1／2／3／4／5 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第1回 イントロダクション（講義の進め方、評価方法、文献の選択） | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第2回～第6回 文献講読により、社会福祉・域福祉理論の講義を行う。（例：岡村重夫『地域福祉論』、川島ゆり子『地域を基盤としたソーシャルワークの展開』等） | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第7回～第11回 学生の関心にあわせ、現在の社会福祉・地域福祉課題についての講義とディスカッションを行う。 | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第12回～第14回 文献講読と講義内容を踏まえた受講生の課題に関するディスカッションを行う。 | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第15回 まとめ（学びの整理とディスカッションを行う。） | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |

| | | |
|---|---|---|
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

初回講義時に指示する。

オフィスアワー

質問は授業後に受け付ける。
また、随時メールでの質問も受け付ける。

連絡先

yamahiro@niimi-u.ac.jp

留意事項

教材指定の図書に基づいて進めるので、年間スケジュールに沿って事前にテキストの該当か所を読んでプレゼン資料にまとめて持参していただき、その発表をもとにディスカッションを行います。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 地域福祉学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7155 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 山本　浩史 | | | | |
| 時間割備考 | 院生と協議の上で設定 | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | １講義 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

本講義では、地域福祉学特論Ｉを踏まえ、今日的な社会福祉や地域福祉の課題を取りあげ考えます。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 発見学習 |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | (1) 今日の福祉課題やそれらの背景に関して理解できている。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | (2) 今日的な福祉理念および理論に関して説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 3 | (3) 地域福祉の課題について発表ができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 4 | (4) 地域福祉実践方法に関してプレゼンテーションが行なえる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 5 | (5) 地域福祉実践方法に関して理論的思考をもって説明ができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 本科目は、授業内容に関する知識の修得、深化のレベルを、日頃の学修姿勢、発表内容等などから判断する。評価基準は、授業開始日に説明される。 | 1／2／3／4／5 |
| 2 | 課題レジメ資料40% | 1／2／3 |
| 3 | 発表・発言等の参加態度60% | 1／2／3／4／5 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第1回 イントロダクション（講義の進め方、評価方法、文献の選択） | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第2回～第6回　文献講読により、日本における社会福祉・地域福祉の歴史についての講義を行う。 | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第7回～第8回　文献講読により、日本における岡山県の社会福祉・地域福祉の歴史についての講義を行う | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第9回～第10回 文献講読により、日本におけるソーシャルワーク理論の講義を行う。 | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第11回～第12回文献講読により、日本における現在の地域福祉政策についての講義を行う。 | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 第13回～第14回 文献講読及び講義を踏まえた受講生の課題に関するディスカッションを行う。 | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| 第15回 まとめ（学びの整理と地域福祉実践への援用の可能性についてのディスカッションを行う。） | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |
| | | |
| 事前学修 | | |
| 事後学修 | | |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

初回講義時に指示する。

オフィスアワー

質問は授業後に受け付ける。
また、随時メールでの質問も受け付ける。

連絡先

yamahiro@niimi-u.ac.jp

留意事項

教材指定の図書に基づいて進めるので、年間スケジュールに沿って事前にテキストの該当か所を読んでプレゼン資料にまとめて持参していただき、その発表をもとにディスカッションを行います。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間社会論演習I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7160 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 杉山　博昭 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | ２演習 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

本授業では、社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。格差・貧困、介護労働、ジェンダー、福祉国家、地域福祉など、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 文献を読みこなし、社会福祉をめぐる課題について提言することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 政策や実践について、主体的に議論することができる。 | 知識・技能／主体性 |
| 3 | 社会福祉の理論について具体的に説明することができる。 | 知識・技能／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 発表態度・発表内容　50% | 1／2 |
| 2 | 2 回のレポートにおいて到達目標を評価する　50% | 3 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 1　社会福祉原理論研究の意義と課題　社会福祉研究における「原論」の意義 | | |
| 事前学修 | 社会福祉原論に関連する文献を読んでおく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 読んだ関連文献について、批判的に検討しまとめておく。 | ２時間以上 |
| 2　格差・貧困問題と社会福祉　子どもの貧困　女性の貧困の現実 | | |
| 事前学修 | 貧困に関連する文献を読み、概要を把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 現代日本の貧困をどう捉えるか、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 3　生存権と社会福祉　諸外国の動向　朝日訴訟などの憲法訴訟 | | |
| 事前学修 | 生存権に関連する文献を読み、概要を把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 生存権についての自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 4　社会福祉の歴史認識−社会福祉の歴史的性格とは何か | | |
| 事前学修 | 社会福祉の歴史の概要を文献を用いて理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 日本の社会福祉の歴史的特質について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 5　社会福祉史の具体的課題　慈善事業の特質　社会事業の形成　戦時厚生事業 | | |
| 事前学修 | 戦前の社会福祉史における出来事を具体的に整理して理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 戦前の社会福祉の出来事のいくつかを取り上げ、評価について自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |

| | | |
|---|---|---|
| 6　社会福祉におけるソーシャルワークの役割 | | |
| 事前学修 | ソーシャルワークとは何か、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | ソーシャルワークの課題について検討し、自分の見解をまとめる | ２時間以上 |
| 7　ソーシャルワーク論の変遷　アメリカにおけるソーシャルワークの展開過程から | | |
| 事前学修 | アメリカにおけるソーシャルワークの歴史をまとめ、理解する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | アメリカのソーシャルワークの歴史を通して、どのように評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 8　ソーシャルワークの国際動向 | | |
| 事前学修 | ソーシャルワークの国際動向について、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | ソーシャルワークが国際的にどのような役割を果たすべきか、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 9　社会福祉の政策・理論研究　古川孝順・京極高宣の議論から | | |
| 事前学修 | 日本の社会福祉研究における主要な理論書を読んでおく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 日本の主要な社会福祉理論に対して、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 10　戦後の社会福祉理論（１）　岡村理論 | | |
| 事前学修 | 岡村重夫による著作を読み、岡村理論について理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 岡村理論に対する自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 11　戦後の社会福祉理論（２）　孝橋理論 | | |
| 事前学修 | 孝橋正一の著作を読み、孝橋理論について理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 孝橋理論に対する自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 12　戦後の社会福祉理論（３）　一番ヶ瀬・真田・高島理論 | | |
| 事前学修 | 一番ヶ瀬康子の著作を読み、一番ヶ瀬理論について理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 一番ヶ瀬理論に対する自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 13　戦後の社会福祉理論（４）　三浦理論 | | |
| 事前学修 | 三浦文夫の著作を読み、三浦理論について理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 三浦理論に対する自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 14　社会福祉の歴史研究　吉田久一の研究をめぐる評価と近年の研究動向 | | |
| 事前学修 | 吉田久一の著作を読み、吉田の歴史研究の特徴を理解する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 吉田の歴史研究への自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 15　社会福祉の法体系　近年の法改正の特徴と今後の展望 | | |
| 事前学修 | 社会福祉の近年の法改正の特徴をまとめ、理解する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 社会福祉の近年の動向への自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |

試験等

期末にレポートを課す

試験のフィードバックの方法

他の授業で触れる。またた随時、研究室を訪問して質問してもらいたい。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

〈必携書〉
大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』,2013年, 高菅出版
その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜2限

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなしたうえで主体的に参加すること。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間社会論演習II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7165 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 杉山　博昭 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | ２演習 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 人間社会論 | | | | |

本授業の概要

本授業では、社会福祉関係の文献を順次講読し、社会福祉の思想理論について検討する。社会福祉実践の専門性、ジェンダー、地域包括ケアなど、個々の課題と、社会福祉原論とを結び付けて検討していく

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 調査学習 |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 福祉国家政策などマクロな視点での社会福祉の議論をすることができる。 | 知識・技能 |
| 2 | 専門教育など福祉実践の性格を理解し、実践のあり方を説明することができる。 | 思考・判断・表現力 |
| 3 | わが国の地域の性格を踏まえて地域での福祉活動を提案することができる。 | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 発表態度・発表内容の総合的判断　50% | 1／2 |
| 2 | 2 回のレポートでの提案 | 3 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 1　社会福祉と社会保障　その関係性 | | |
| 事前学修 | 社会福祉と社会保障の定義を確認する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 社会福祉と社会保障の相互的関係について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 2　福祉国家をめぐって 福祉国家論の系譜と福祉国家政策 | | |
| 事前学修 | 福祉国家とは何か、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 既存の福祉国家論について評価し、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 3　社会福祉実践の歴史的系譜　慈善から社会福祉への変遷 | | |
| 事前学修 | 日本と外国の社会福祉の歴史をまとめておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 社会福祉の歴史のなかの主要で出来事について整理し、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 4　戦前における専門職性の到達点　日本での専門職のはじまり | | |
| 事前学修 | 戦前における日本での専門職論を整理して理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 戦前の専門職論の現在への影響について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 5　戦後の社会福祉専門教育　専門教育の創始から国家資格制定前まで | | |
| 事前学修 | 戦後の社会福祉専門教育の沿革をまとめておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 戦後の社会福祉専門教育の現在への影響について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |

| | | |
|---|---|---|
| 6　国家資格化の意義と限界　国家資格の概要と課題 | | |
| 事前学修 | 社会福祉士、介護福祉士資格の概要と課題をまとめる。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 社会福祉士、介護福祉士資格の課題に対する自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 7　社会福祉における介護労働　介護労働をめぐる近年の議論と労働力不足への対応 | | |
| 事前学修 | 近年の介護労働をめぐる課題や議論について整理して理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | これからの介護労働のあり方について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 8　社会福祉とジェンダー　ジェンダーが社会福祉にどう影響しているか | | |
| 事前学修 | ジェンダー論について、主要な見解を文献を用いて理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | ジェンダーと社会福祉の関係について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 9　政策動向と社会福祉　近年の社会福祉の変化 | | |
| 事前学修 | 最近の社会福祉政策の動向について把握し理解しておく。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 最近の社会福祉政策の動向について、どう評価すべきか、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 10　新自由主義路線の社会福祉への影響　福祉政策を中心に | | |
| 事前学修 | 新自由主義とは何か、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 新自由主義と社会福祉の関連について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 11　社会福祉経営　民間営利・非営利の経営の特質 | | |
| 事前学修 | 社会福祉経営について、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 非営利、営利それぞれの社会福祉経営における課題を整理し、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 12　コミュニティと社会福祉　地域から福祉を創る | | |
| 事前学修 | 現代日本におけるコミュニティを課題について、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 現在のコミュニティの現実の中で社会福祉をどう推進すべきか、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 13　地域における福祉の創造　地域を福祉の場にするために | | |
| 事前学修 | 地域において福祉の取り組んでいる先進事例調べ、整理する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | これから地域での福祉の創造をどう推進すべきか、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 14　地域包括ケアシステム | | |
| 事前学修 | 地域包括ケアシステムとは何か、関連文献によって把握する。 | ２時間以上 |
| 事後学修 | 地域包括ケアシステムについての自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |
| 15　少子高齢化のなかでの社会福祉の展望　財源確保や人材確保 | | |
| 事前学修 | 今後の社会福祉の課題となっていることについて把握し理解しておく | ２時間以上 |
| 事後学修 | 社会福祉の財源確保や人材確保について、自分の見解をまとめる。 | ２時間以上 |

試験等

期末にレポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

人間社会論演習Ⅱで行う。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

〈必携書〉
大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』，2013年，高菅出版
その他社会福祉の新刊書等を適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜2限

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

発表者だけでなく、受講者全員が該当文献を読みこなしたうえで主体的に参加すること。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 日本民俗学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7210 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 平松　典晃 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 社会史 | | | | |

本授業の概要

日本民俗学の基本的な知識と技術を身につけた上で、民俗学の視点に立ち自ら調査・研究を行うことができるようになることを目指す。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 調査学習 |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 日本民俗学の立脚点を理解し，説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解し，説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | 民俗学および関連分野の論文が読解できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 期末に課すレポートによって，上記の到達目標の達成度を評価する。 | 1／2／3 |
| 2 | 授業中に課した口頭発表を評価に加味する。 | 1／2／3 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務あり |

実務経験の授業への活用方法

高等学校における教員としての指導経験を生かし、効果的な授業展開に努める。学芸員としての実務経験をもとに民俗調査や研究方法の習得、民俗学に求められる役割や課題の解決にむけて実践的な取り組みを促す。

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

| | | |
|---|---|---|
| １．民俗学とは | | |
| 事前学修 | 民俗学とはどのような学問か調べておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 文献を用い、民俗学という学問がどのように理解されているか確認し、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ２．柳田國男と日本民俗学 | | |
| 事前学修 | 柳田国男の著作『遠野物語』を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ３．社会伝承（村とムラ） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ４．社会伝承（家） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ５．経済伝承（生業） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |

| | | |
|---|---|---|
| ６．社会伝承（交易） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ７．儀礼伝承（人生儀礼） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ８．儀礼伝承（葬送・墓制） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ９．儀礼伝承（年中行事） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 10．儀礼伝承（農耕儀礼） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 11．信仰伝承（カミ・ホトケの性格） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 12．信仰伝承（祭りの本質） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 13．信仰伝承（仏教民俗） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 14．信仰伝承（俗信） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文を講読しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 15．まとめ | | |
| 事前学修 | 日本人の持つ他界観、宗教観について学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |

試験等

期末にレポートを課す。

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

<参考文献>授業中に提示する。その他，必要な資料は配付する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先

s3039@m.ndsu.ac.jp

留意事項

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 日本民俗学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7215 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 平松　典晃 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 社会史 | | | | |

本授業の概要

祭りや先祖祭祀など、宗教民俗に関する事例を取り上げ、歴史民俗学の手法により検討する。自ら調査・研究を行うことができるようになることをめざす。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 調査学習 |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 日本の社会における様々な宗教民俗の実態が説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 庶民の家意識と寺壇関係の形成が密接にかかわっていることを理解し、説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 期末に課すレポートによって，上記の到達目標の達成度を評価する。 | 1／2 |
| 2 | 授業中に課した口頭発表を評価に加味する。 | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務あり |

実務経験の授業への活用方法

高等学校における教員としての指導経験を生かし、効果的な授業展開に努める。学芸員としての実務経験をもとに民俗調査や研究方法の習得、民俗学に求められる役割や課題の解決にむけて実践的な取り組みを促す。

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

| | | |
|---|---|---|
| １．歴史民俗学の研究方法 | | |
| 事前学修 | 歴史民俗学の手法について調べておく。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ２．検地と庶民の家意識 | | |
| 事前学修 | 検地の歴史について調べておくこと。自治体史などで検地帳を確認しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ３．庶民の家意識と先祖祭祀 | | |
| 事前学修 | 検地がムラや家にどのような影響をもたらしたか文献をよみ考えておく。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ４．同族祭祀の展開 | | |
| 事前学修 | 「同族祭祀」とはどのようなものか調べておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ５．庶民の先祖祭祀と寺院（寺檀関係の形成と寺院の創建） | | |
| 事前学修 | 関係する書籍、論文等を探し、事前に学習しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |

| | | |
|---|---|---|
| ６．家の先祖祭祀と宗派 | | |
| 事前学修 | 近世における日蓮宗不受不施派の信仰について調べておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ７．神社の祭り（1） | | |
| 事前学修 | 祭りの調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ８．神社の祭り（２） | | |
| 事前学修 | 祭りの調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| ９．寺の行事（１） | | |
| 事前学修 | 調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 10．寺の行事（２） | | |
| 事前学修 | 調査報告など事例を探し、よく目を通しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 11．寺院縁起にみる仏教民俗の展開（１） | | |
| 事前学修 | 該当する資料によく目を通しておくこと（授業時に案内する）。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 12．寺院縁起にみる仏教民俗の展開（２） | | |
| 事前学修 | 該当する資料によく目を通しておくこと（授業時に案内する）。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 13．寺院縁起にみる仏教民俗の展開（３） | | |
| 事前学修 | 該当する資料によく目を通しておくこと（授業時に案内する）。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 14．まとめ（１）ムラと家における先祖祭祀の変遷 | | |
| 事前学修 | 家（屋敷）の中にある神棚・仏壇などの祭祀場所を調べておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 15．まとめ（２）神社と寺の祭りにみる民俗 | | |
| 事前学修 | 宵宮と祝祭の関係を確認しておくこと。 | １～２時間程度 |
| 事後学修 | 関係する書籍、論文等を読み、学習内容を整理しておくこと。 | １～２時間程度 |

試験等

期末にレポートを課す。

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

<参考文献>授業中に提示する。その他，必要な資料は配付する。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先

s3039@m.ndsu.ac.jp

留意事項

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 比較文化特論Ⅰ | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7220 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 紺谷　亮一 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活文化論 | | | | |

本授業の概要

西アジアの人文地理、自然地理、言語を取り上げ、各地域の特徴を概観しながら、今日の西アジア世界の実態にせまる。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー<br>（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 西アジアの自然、文化を通して、現代西アジア世界の諸問題の要因について説明できる。 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 口頭発表 50%、課題レポート 50% | 1 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

第 1 回：講義概要

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

第 2 回：西アジアの地形

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

第 3 回：西アジアの気候

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

第 4 回：西アジアの民族構成

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

第 5 回：西アジアの人文自然地理に関する論文講読

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：西アジアの先史狩猟採集民 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 7 回：西アジアの遊牧民 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 8 回：西アジアの農耕民 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 9 回：西アジアの民族学に関する論文講読 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 10 回：西アジアの食文化 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 11 回：西アジアの住居文化 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 12 回：西アジアの言語文化 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 13 回：トルコ語の文化的背景 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 14 回：西アジアの言語に関する論文講読 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 15 回：まとめ | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

試験等

試験のフィードバックの方法

講義中に指示する。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

講義中に指示する。

オフィスアワー

講義中に指示する。

連絡先

kontani@post.ndsu.ac.jp

留意事項

一部、演習形式も取り入れる。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 比較文化特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7225 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 紺谷　亮一 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活文化論 | | | | |

本授業の概要

西アジアの近現代史を取り上げ、特に取ることシリアの事例を概観しながら、今日の西アジア世界の実態にせまる。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | トルコ、シリアの近現代史を通して、現代西アジア世界の諸問題の要因について説明できる。 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 口頭発表 50%、課題レポート 50% | 1 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：講義概要 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 2 回：オスマン・トルコ帝国の崩壊 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 3 回：ケマル・アタテュルクによるトルコ革命 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 4 回：トルコ共和国の成立 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 5 回：トルコの現状 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：イスタンブルの歴史的景観 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 7 回：トルコ語①文法 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 8 回：トルコ語②新聞見出し | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 9 回：トルコ語③テレビニュース | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 10 回：「アラブの春」とは何か | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 11 回：シリア内乱の要因 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 12 回：アレッポの歴史的景観 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 13 回：日本・トルコ交渉史 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 14 回：現代西アジアに関する論文講読 | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |
| 第 15 回：まとめ | | |
| 事前学修 | 担当教員の指示に従い、事前の課題に取り組む。 | 60分 |
| 事後学修 | 担当教員の指示に従い、事後の課題に取り組む。 | 60分 |

試験等

試験のフィードバックの方法

講義中に指示する。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

講義中に指示する。

オフィスアワー

講義中に指示する。

連絡先

kontani@post.ndsu.ac.jp

留意事項

一部、演習形式も取り入れる。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 家族・社会構造特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7230 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 山下　美紀 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 社会学 | | | | |

本授業の概要

家族社会学が取り組んできた領域やテーマを広くとりあげ、家族社会学の理論を説明する
家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する
並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解し、説明することができる | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 3 | 今日的な課題への取り組みを明らかにしてその成果を問うことができる | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業および討論への取り組み　30% | 1／2／3 |
| 2 | 中間報告　20% | 1／2／3 |
| 3 | 課題・レポート　25% | 1／2／3 |
| 4 | 最終報告　25% | 1／2／3 |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

第 1 回　講義概要　オリエンテーション

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 2 回　家族社会学の分析視角

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 3 回　輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 4 回　歴史社会学的アプローチ

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 5 回　人口学的アプローチ

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回　ジェンダー研究的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 7 回　エスノメソドロジー的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 8 回　輪読②　マリノウスキー『性・家族・社会』 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 9 回　構造機能論的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 10 回　家族ストレス論的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 11 回　相互作用論的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 12 回　交換論的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 13 回　輪読③　マードック『社会構造 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 14 回　ライフコース論的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 15 回　ネットワーク論的アプローチ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

| 試験等 |
| --- |
| 口述試験を行う |
| 試験のフィードバックの方法 |
| 複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する<br>口述試験について、必要な助言を与える |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房. |
| オフィスアワー |
| 授業中に指示する<br>随時、メールで質問を受け付ける |
| 連絡先 |
| miki@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 家族・社会構造特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7235 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 山下　美紀 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 社会学 | | | | |

本授業の概要

この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深める
とくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する
家族にかかわる基本的文献および今日的課題に関する文献を随時紹介し、家族社会学の研究の可能性に言及する

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 家族社会学研究の基本を理解する | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | 家族研究に関するさらなる理論的展開の可能性を論じることができるようになる | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業および討論への取り組み　30% | 1／2／3 |
| 2 | 課題・レポート　30% | 1／2／3 |
| 3 | 最終レポート　40% | 1／2／3 |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

第 1 回　講義概要　家族社会学研究の基本

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 2 回　日本の家族変動

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 3 回　恋愛と結婚

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 4 回　子育てにみる家族主義の限界

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

第 5 回　討論①　第 2 回～第 4 回をふまえて

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回　介護の「再家族化」 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 7 回　家族階層と教育機会 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 8 回　生活の共同性と家族主義 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 9 回　討論②　第 6 回～第 8 回をふまえて | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 10 回　「お金」と「愛情」の間 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 11 回　セクシュアル・マイノリティの家族 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 12 回　成人子と親との関係 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 13 回　討論③　第 10 回～第 12 回をふまえて | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 14 回　家族と政治・法律 | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |
| 第 15 回　討論④・まとめ | | |
| 事前学修 | 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回４時間程度） | （各回4時間程度） |
| 事後学修 | 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度） | （各回4時間程度） |

| 試験等 |
| --- |
| 口述試験 |
| 試験のフィードバックの方法 |
| 複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する<br>口述試験について、必要な助言を与える |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社. |
| オフィスアワー |
| 授業中に指示する<br>随時、メールで質問を受け付ける |
| 連絡先 |
| miki@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 食生活文化論特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7240 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 清水　純一 | | | | |
| 時間割備考 | 院生と協議の上で設定 | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活文化論 | | | | |

本授業の概要

本授業では食の生産から消費に至るまでを総合的に分析する「フードシステム論」の枠組みを経済学・経営学・社会学・食文化論を駆使して説明する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | フードシステム論の枠組みを活用して食生活の変化を分析できる。 | 知識・技能／主体性 |
| 2 | 学際的アプローチを可能にする、思考能力、方法論を獲得し、実際のケーススタディに応用することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 毎回の課題の成績（70%）および期末レポート（30%）によって評価する。毎回の課題は各章の基礎的知識が確実に身についているかを評価し、期末レポートでは実際のケースに応用でき、論理的な文章になっているかを評価する。 | 1／2 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：日本のフードシステム<br>農水産業から消費者にいたる、物の流れを産業連関表を使って理解する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第1章を熟読し、フードシステムのフローチャート（図1-3）を他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第1章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 2 回：食生活の現状<br>政府統計を用いて、わが国の食生活の変化を定量的に把握する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第2章を熟読し、図2-7を最新のデータにアップデートする。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第2章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 3 回：食生活の変化の要因<br>需要の価格弾力性と所得弾力性の概念から食生活の変化を理論的に導く。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第3章を熟読し、データから需要の価格弾性値と所得弾性値を実際に計算できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第3章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 4 回：食品製造業<br>従業員規模や出荷額から食品製造業の構造特性を明らかにする。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第4章を熟読し、他産業と比較した食品製造業における研究開発費の特徴を整理し、説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第4章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 5 回：食品流通１（卸売）<br>生鮮食品流通における卸売市場の役割を検討する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第5章を熟読し、取引総数最小化の原理を他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第5章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：食品流通２（小売）<br>スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの成り立ちと特徴を明らかにし、それらを支える仕組みや背景を確認する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第6章を熟読し、チェーンオペレーションの特徴を他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第6章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 7 回：外食産業<br>1970年以降、日本で発達した外食産業の成り立ちと仕組みを学ぶ。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第7章を熟読し、チェーンレストランにおけるセントラルキッチンの役割と機能を整理し、他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第7章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 8 回：中食産業<br>消費者にとっての中食の広がりを見た後、中食関連産業の成長と業種としての特徴を明らかにする。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第8章を熟読し、惣菜市場規模のデータをアップデートして、COVID-19蔓延以前と蔓延期を比較する。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第8章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 9 回：日本の農業<br>食生活の変化が農業と深く結びついていることを確認する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第9章を熟読し、第二次世界大戦後の総農家数の推移を表計算ソフトに入力し、グラフ化しておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第9章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 10 回：食料の輸入と自給率<br>食料自給率の推移から日本の食料供給の現状について理解を深める。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第10章を熟読し、供給熱量ベースの総合食料自給率と生産額ベースの総合食料自給率の定義の違いを理解し、それを他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第10章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 11 回：世界の人口と食料問題<br>データに基づいて「マルサスの命題」を検証する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第11章を熟読し、地域別栄養不良人口の分布（表11-2）の特徴を他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第11章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 12 回：世界の食料貿易<br>3大穀物（小麦、米、とうもろこし）と大豆の貿易構造をデータから解明する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第12章を熟読し、日本農産物の純輸出比率を最新のデータを使って計算する。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第12章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 13 回：食料をめぐる貿易問題<br>GATT、WTO、FTAの違いを歴史的背景に留意しながら整理する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第1章を熟読し、最新の情報を基に図13-2をアップデートする。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第13章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 14 回：食の安全と消費者の信頼<br>食の安全を支える様々なレベルでの標準的な仕組みについて理解する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第14章を熟読し、リスクアナリシスの枠組みを他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第14章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 15 回：食料をめぐるいくつかの問題<br>食料をめぐる最新のトピック（食品ロス、スマート農業など）を取り上げ、それがもたらす影響を考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『フードシステム入門』第15章を熟読し、<br>食品ロスと食品廃棄物の違いを他者に説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『フードシステム入門』第15章末の演習課題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |

| 試験等 |
| --- |
| 15週の授業終了後に期末レポートを課す。 |
| 試験のフィードバックの方法 |
| 期末レポートはコメントをつけて返却する。 |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| フードシステム入門／薬師寺　哲郎／建帛社／2200／9784767906362／冊子版 |
| オフィスアワー |
| 授業後に質問を受け付ける。また、メールでも受け付ける。 |
| 連絡先 |
| sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 食生活文化論特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7245 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 清水　純一 | | | | |
| 時間割備考 | 院生と協議の上で設定 | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活文化論 | | | | |

本授業の概要

本授業では、主として日本の高度経済成長以後を対象にし、社会・経済構造の変化による食料消費の変化が、食生活に与えた影響を食料経済学の立場から分析する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 経済学の立場から食生活・食文化を分析するための、基本的な経済学のツールを修得し、他者に説明できる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 到達目標１で蓄積した知識とツールを利用し、現状の食生活を分析できる。 | 主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 毎回のレポート課題の成績（70%）. | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（30%）。 | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務あり。 |

実務経験の授業への活用方法

農林水産省で食品産業の調査を実施した経験から、理論のみでなく、実践に基づいた教育を行う。

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

第 １ 回 ： ミクロ経済学の基礎１（消費者のインセンティブ）
ミクロの消費者（家計）が行う、予算制約下における効用最大化行動から個別の需要曲線が導かれること。また、それを集計することにより市場需要曲線が導出されることを理解する。

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 必携書『ミクロ経済学入門 第2版』の第３章・第４章（pp. 39-83）を熟読し、家計の主体均衡について理解する。（120分） | |
| 事後学修 | 『ミクロ経済学入門 第2版』の第3章と第4章の練習問題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |

第 ２ 回 ： ミクロ経済学の基礎２（生産者のインセンティブ）
ミクロの企業が行う、利潤最大化行動から個別の供給曲線が導かれること。また、それを集計することにより市場供給曲線が導出されることを理解する。

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 必携書『ミクロ経済学入門 第2版』の第6章・第7章（pp. 109-）を熟読し、企業の主体均衡について理解する。（120分） | |
| 事後学修 | 『ミクロ経済学入門 第2版』の第6章と第7章の練習問題を解き、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |

第 ３ 回 ： 経済学と農業的世界
都市的世界に対する農業的世界の特質を生産要素の観点から理解する。

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第1章を熟読し、都市的世界と農業的世界の違いは何か考えてみる。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第1章にある、表1-1を最新のデータにバージョンアップし、2017年から変化した部分を考察して、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分 | |

第 ４ 回 ： 経済発展と農業
経済発展するにつれて、農業部門の割合が相対的に縮小することを経済学の理論から証明する。

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第2章を熟読し、エンゲルの法則とペティ＝クラークの法則の関係を理解できるようにする。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第2章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |

第 ５ 回 ： 食料の需要と供給
食料需要の価格弾力性と農産物市場の不安定性の関係を分析する。

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第3章を熟読し、くもの巣モデルを理解できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第3章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回 ： 農業生産と土地<br>農業生産におけるBC過程とM過程の違いを学ぶ。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第4章を熟読し、収穫逓減の法則とその原因を説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第4章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 7 回 ： 農業の経営組織<br>現在でも農業の中心となっている家族農場について、様々な側面から分析する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第5章を熟読し、家族農場の特徴を整理しておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第5章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 8 回 ： 農産物の市場組織<br>農業における農業協同組合の役割を経済学の視点から考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第6章を熟読し、農産物価格支持政策を需要曲線と供給曲線を用いて説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第6章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 9 回 ： 農産物貿易と農業保護政策<br>先進国において農業保護政策が導入された背景を考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第7章を熟読し、GATT、WTO、FTAの違いを整理しておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第7章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 10 回 ： 世界の人口と食料<br>人口増加と食料供給の関係について分析する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第8章を熟読し、マルサスの予言が当たっていたのか、自分なりの意見を用意しておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第8章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 11 回 ： 食生活の成熟とフードシステム<br>農業と消費者を結ぶ食品産業の役割が重要になってきている背景を考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第9章を熟読し、食の外部化が進展した原因を説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第9章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 12 回 ： 農業の近代化<br>農業の近代化をもたらした緑の革命について、その是非を議論する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第10章を熟読し、経済成長における貯蓄の役割を説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第10章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 13 回 ： 資源・環境と農業<br>近代農業は環境を汚染することなく食料供給を持続できるかを考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第11章を熟読し、外部経済効果とはなにかを説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第11章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 14 回 ： 日本の農業と食料<br>先進国における日本農業の特異性について考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第12章を熟読し、農業基本法の理念を説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の第12章末尾の課題に取り組み、manaba folio のフォームに記入して提出する。（120分） | |
| 第 15 回 ： 農業政策と農業経済学<br>社会厚生と農業政策の関係について考察する。 | | |
| 事前学修 | 必携書『農業経済学　第5版』の終章を熟読し、経済学において、食品の安全性を高めるうえでのトレード・オフ要因を説明できるようにしておく。（120分） | |
| 事後学修 | 自分の価値判断の基準を明示したうえで、農産物輸入自由化の是非を考察し、レポートを作成し、manaba folio を通じて提出する。（120分） | |

試験等

期末レポートを提出してもらう。

試験のフィードバックの方法

期末レポート課題はコメントを付けて返却する。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

ミクロ経済学入門／西村　和雄／岩波書店／3300／9784000021937／冊子版

農業経済学 第5版／荏開津 典生／岩波書店／2400／9784000289221／冊子版

オフィスアワー

授業終了後、またはメールで質問を受け付ける。

連絡先

sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業開始前にミクロ経済学の基礎知識を復習しておくこと。使用する数学については、微分の入門的知識を身につけておくこと。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活経営学特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7310 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 豊田　尚吾 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活経営論 | | | | |

本授業の概要

生活者がウェルビーイング（よい生活）を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものかを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。
それにより、生活経営を人間生活とリンクさせ、深みのある考察、研究を行う視点を養う。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | グループ・ディスカッション |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 上記学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践する能力を養う。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 自らの関心に応じて、資料やデータを取集し、それをまとめて効果的な発表をすることができる。 | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業中の発表内容・姿勢（75%） | 1／2／3 |
| 2 | 期末レポート（25%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務あり |

実務経験の授業への活用方法

長年、企業人としてビジネスの現場に携わっていたことを生かし、履修者の持っている問題意識やリサーチクエスチョンを、実践的な価値にもつなげられるような指導を心掛ける。

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回　生活経営とは（講義概要を含む） | | |
| 事前学修 | 自分の問題意識を明確に持ち、自主的により多くの既存研究にあたり、知識を広げるとともに自分なりの見方や論点を授業前に見つけておくことが必要である。従って授業の前後で同等の学習が不可欠である。授業はそれをもとにしたディスカッションがこれに含まれる | 1時間 |
| 事後学修 | 授業で議論した内容を振り返り、次回の授業に活用できるよう整理しておく。 | 1時間 |
| 第 2 回　生活を取り巻く環境変化（少子高齢社会、環境問題など） | | |
| 事前学修 | 少子高齢化などに関心を持ち、経済学的観点からその対策を考えておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 議論を踏まえ社会課題の解決に経済学、経営学がどのように活用できるかまとめてみる。 | 1時間 |
| 第 3 回　ライフプランニング（生活設計） | | |
| 事前学修 | 金融リテラシーを含めライフプランニングの重要性を認識し、その意味や価値について考察するための資料を用意する。 | 1時間 |
| 事後学修 | 生活者のあるべきライフプランニングについて発言ができるよう論点を整理しておく。 | 1時間 |
| 第 4 回　生活経営と企業経営（類似と相違） | | |
| 事前学修 | 企業経営と生活経営について、類似する点と異なる点を分別整理しておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 議論を通じて分かったことについて自分なりにまとめておく。 | 1時間 |
| 第 5 回　経営戦略論 | | |
| 事前学修 | 経営戦略について興味深い事例を探し、その資料を取りまとめておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | ケーススタディを通じての学びをテキストに落とし込んで理解を進める。 | 1時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回　マーケティング戦略論（1）ＳＴＰ | | |
| 事前学修 | マーケティングの基本であるSTPについて実際の事例をもとに効果と課題を考えておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 実際に個別のケースにおけるSTP戦略についてまとめて考えてみる。 | 1時間 |
| 第 7 回　マーケティング戦略論（2）４Ｐ | | |
| 事前学修 | ４P戦略の中で興味のある戦略に絞った情報収集を行っておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 授業を通じて改めて４P戦略の意味と限界をまとめておく。 | 1時間 |
| 第 8 回　ブランド戦略 | | |
| 事前学修 | 研究価値のある個別ブランドについてケーススタディしておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 議論を通じて出てきた論点をまとめ、ブランディングの要諦を書き出しておく。 | 1時間 |
| 第 9 回　ケーススタディ | | |
| 事前学修 | 関心のある企業を選択し、その戦略について分析し、発表資料を作成しておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 発表に対するコメントなどを参考に、戦略の改善策をまとめる。 | 1時間 |
| 第 10 回　生活に生かす企業経営 | | |
| 事前学修 | 消費者と企業活動の共創的関係が実現している事例を探し、まとめてみる。 | 1時間 |
| 事後学修 | 関係性を維持・改善していくために必要な論点をまとめる。 | 1時間 |
| 第 11 回　生活資産のマネジメント | | |
| 事前学修 | 資産運用のトレンドについて調べ、発表用に資料を作成する。 | 1時間 |
| 事後学修 | 議論をもとに、生活資産のマネジメントの可能性と課題をまとめておく。 | 1時間 |
| 第 12 回　各種制度と地域社会へのかかわり | | |
| 事前学修 | 企業の地域貢献に関する考え方の違いと事例を調査し。資料としてまとめる。 | 1時間 |
| 事後学修 | 適切な事例について、その成功要因をまとめておく。 | 1時間 |
| 第 13 回　消費者問題と消費者市民社会 | | |
| 事前学修 | 昨今の消費者問題のトレンドとトピックスを調べまとめておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 消費者市民社会の可能性と課題についてまとめる。 | 1時間 |
| 第 14 回　ソーシャルデザインと倫理的消費 | | |
| 事前学修 | 倫理的消費について、事例と意味について考察しておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 様々な消費のあり方について、構造的にまとめてみる。 | 1時間 |
| 第 15 回　ミクロ経済学とマクロ経済学 | | |
| 事前学修 | 経済学の基礎的な理解を再確認しておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 自らの研究に経済学がどのように活用可能かポイントをまとめておく。 | 1時間 |

試験等

期末レポート

試験のフィードバックの方法

manabaなどを用いて個別にフィードバックを行う。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

（参考書）　『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社）
　　『マクロ経済学』斎藤誠他（有斐閣）
他にもテーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜5限

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活経営学特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7315 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 豊田　尚吾 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | ２演習 | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活経営論 | | | | |

本授業の概要

生活者がウェルビーイング（よい生活）を実現するためのライフマネジメントとはいかなるものかを学ぶ。その際、企業など組織の経営理論、実践を参考にするとともに、生活を設計する前提となる、個人の価値観にも焦点をあてる。
さらに人間生活を経営・経済の観点から見る新しい試みとして消費者行動論、行動経済学を取り上げ、生活経営の広がりも学習する。

| アクティブラーニングの実施内容 | |
|---|---|

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 1.学習を通じて、生活経営に関する現実と理論を習得するとともに、課題の発見、仮説の立案、説得的な検証を実践することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 2.自らの関心に応じて、資料やデータを取集し、それをまとめて効果的な発表をすることができる。 | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業中の発表内容・姿勢（80%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（20%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務あり |
|---|---|

実務経験の授業への活用方法

長年、企業人としてビジネスの現場に携わっていたことを生かし、履修者の持っている問題意識やリサーチクエスチョンを、実践的な価値にもつなげられるような指導を心掛ける。

| 日本語以外の言語による授業 | |
|---|---|

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 １ 回　家計消費の構造分析 | | |
| 事前学修 | 自分の問題意識を明確に持ち、自主的により多くの既存研究にあたり、知識を広げるとともに自分なりの見方や論点を授業前に見つけておくことが必要である。授業はそれをもとにしたディスカッションが主なものとなる。 | 45分 |
| 事後学修 | 家計消費の構造について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 ２ 回　市場メカニズムの機能と理論 | | |
| 事前学修 | 市場構造や成果に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 資本主義社会の市場の機能について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 ３ 回　雇用、賃金とキャリア論 | | |
| 事前学修 | 雇用、賃金に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 現代日本が抱える雇用問題について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 ４ 回　政府・企業・ＮＰＯの活動と役割 | | |
| 事前学修 | 主要なNPOの活動に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 社会を形成する経済組織について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 ５ 回　財政・金融政策 | | |
| 事前学修 | 現在の政府の政策に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 現代日本の公共政策について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回　グローバル経済と地域経済 | | |
| 事前学修 | 国際化、ボーダーレス化に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 経済のグローバル化に伴う諸課題について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 7 回　サステイナブルな社会とは | | |
| 事前学修 | 社会の持続可能性に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 持続可能性という概念について深堀りした内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 8 回　生活経済学を生活経営に生かす | | |
| 事前学修 | ファイナンシャルプランニングに関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 生活の金銭的マネジメントについて、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 9 回　ウェルビーイングと主観的幸福感 | | |
| 事前学修 | 福祉社会に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 主観的幸福感の既存研究内容について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 10 回　消費者行動の基本モデル | | |
| 事前学修 | 消費者行動の理論に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 消費者行動には学際的アプローチが必要であることについて、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 11 回　生活者のアノマリー | | |
| 事前学修 | 消費者心理学に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | アノマリーという概念が、今後の研究のヒントをもたらしてくれる可能性について議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 12 回　行動経済学で生活経営を考える | | |
| 事前学修 | 行動経済学に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 行動経済学にも多様な視点があることについて、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 13 回　進化心理学とウェルビーイングの実現 | | |
| 事前学修 | 脳科学と経済学に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 脳科学と消費者の効用、経済学への応用可能性など、今回議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 14 回　未来を創る地域づくり | | |
| 事前学修 | 地域経済の活性化施策に関して自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 岡山地方の経済活性化の可能性について、議論した内容を整理し、自分の知識として活用できるようにしておく。 | 45分 |
| 第 15 回　まとめ・総括 | | |
| 事前学修 | 本講義を通じて得た問題意識をもとに自分が興味のあるトピックをテーマ設定し、それに関する調査を行う。 | 45分 |
| 事後学修 | 本講義を通じて得た問題意識をもとに自分が興味のあるトピックを研究し、レポートにまとめる。 | 45分 |

試験等

期末レポート

試験のフィードバックの方法

manabaなどを用いて個別にフィードバックを行う。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

（参考書）　『ミクロ経済学』西村和雄（東洋経済新報社）
　　『マクロ経済学』斎藤誠他（有斐閣）
他にもテーマに応じて参考になる図書、資料を適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜4限。変更があった場合には伝える。

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

履修者の研究テーマに応じて内容を変更することがある。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活情報処理特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7340 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 大東　正虎 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活経営論 | | | | |

本授業の概要

情報化の進展に伴い、人々の生活や生活産業も変化してきている。本講義では、情報ネットワークの基礎を理解するために、情報通信ネットワークの役割、情報モラル、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティを修得する。
また、情報通信ネットワークを使った生活産業と消費者とのコミュニケーション手段が増えていることから、その違いを説明できるようにする。
そして、発信者の立場から情報デザイン、著作権の考え方を修得し、またウェブページ作成によって発信に必要な技術を習得する。

| アクティブラーニングの実施内容 | |
|---|---|

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 情報通信ネットワークの基礎的な考え方について説明することができる。 | 知識・技能 |
| 2 | コミュニケーション方法の違いが説明できる。 | 知識・技能 |
| 3 | 情報デザイン、著作権を説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 4 | ウェブページを作成することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 通常レポート | 1／2／3／4 |
| 2 | 最終レポート　(50%) | 1／2／3 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| １．情報化の進展と社会 | | |
| 事前学修 | 情報化社会の特徴を調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 社会の流れ、情報化の利点と欠点を整理する | 1時間 |
| ２．生活産業における情報化の進展 | | |
| 事前学修 | 生活産業（医療、教育、金融など）での情報技術の活用例を調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 事例をまとめ、今後の発展を考える | 1時間 |
| ３．情報モラル | | |
| 事前学修 | 情報モラル（個人情報保護、フェイクニュースなど）について調べる | 1時間 |
| 事後学修 | ルールやガイドラインを整理し、対策を考える | 1時間 |
| ４．情報通信ネットワークの仕組み　(1) コンピュータネットワーク | | |
| 事前学修 | LAN、WANとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | ネットワークの種類を整理し、仕組みを理解する | 1時間 |
| ５．情報通信ネットワークの仕組み　(2) インターネットの技術 | | |
| 事前学修 | IPアドレス、DNS、プロトコル（TCP/IP）とは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | インターネットの技術的な仕組みを理解する | 1時間 |

| | | |
|---|---|---|
| ６．情報セキュリティ | | |
| 事前学修 | 情報セキュリティの脅威（ウイルス、フィッシングなど）を調べる | 1時間 |
| 事後学修 | セキュリティ対策（パスワード管理、暗号化）を列挙し、有効な策を考える | 1時間 |
| ７．目的に応じたコミュニケーション | | |
| 事前学修 | コミュニケーションツールを列挙する | 1時間 |
| 事後学修 | 相応しい伝達方法について考える | 1時間 |
| ８．情報デザイン | | |
| 事前学修 | 情報デザインとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 適切な情報デザインの実例を探し、利点を挙げる | 1時間 |
| ９．情報コンテンツの作成　(1) 著作権 | | |
| 事前学修 | 著作権とは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 適切な情報活用の方法を整理する | 1時間 |
| 10. 情報コンテンツの作成　(2) HTML 記述の基本構造 | | |
| 事前学修 | HTMLとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | HTMLタグを記述して、ブラウザに反映されているかを確認する | 1時間 |
| 11. 情報コンテンツの作成　(3) 文字よる表現 | | |
| 事前学修 | 文字装飾タグにはどのようなものがあるかを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | HTMLタグを記述して、文字の装飾や配置を確認する | 1時間 |
| 12. 情報コンテンツの作成　(4) 表による表現 | | |
| 事前学修 | 表が使われている資料を調べる | 1時間 |
| 事後学修 | HTMLタグを記述して、表のズレなどが無いことを確認する | 2時間 |
| 13. 情報コンテンツの作成　(5) 画像による表現 | | |
| 事前学修 | Webページに使用したい写真や動画を整理する | 2時間 |
| 事後学修 | HTMLタグを記述して、画像サイズや配置を変更する | 1時間 |
| 14. 情報コンテンツの作成　(6) Web ページ内リンク | | |
| 事前学修 | Webページにしたい内容をいくつか考える | 2時間 |
| 事後学修 | 作成したウェブページ内で目的の項目がすぐに見られるようにする。 | 1時間 |
| 15. 情報コンテンツの作成　(7) Web ページを相互にリンク | | |
| 事前学修 | 複数のWebページが作成できるように内容を考える | 2時間 |
| 事後学修 | 作成したウェブページを相互にリンクさせて、閲覧者が使いやすいものにする | 3時間 |

試験等

最終レポート課題を提出

試験のフィードバックの方法

manaba folio などで解説を掲載する。

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

月曜日4限。またはメールで受け付ける。

連絡先

daito@m.ndsu.ac.jp

留意事項

身近な事柄と関連づけながら、積極的な参加を望む。
毎回USBメモリなどに作業内容を保存すること。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活情報処理特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7345 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 大東　正虎 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活経営論 | | | | |

本授業の概要

生活産業の特徴を理解するために、モデル化の方法とアルゴリズムを修得する。
また、シミュレーションを学習することによって将来の予測を立てることができるようになる。
さらにプログラミング技術を身に付けることによって、パターン化された処理を効率化することができるようになる。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | モデル化とアルゴリズムについて説明することができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | VBA を使ったプログラミングができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | Excel を使ったデータベース活用ができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 4 | Excel を使ったシミュレーションができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 通常レポート（50%） | 1／2／3／4 |
| 2 | 最終レポート（50%） | 1／2／3／4 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| １．モデル化とシミュレーションの必要性 | | |
| 事前学修 | モデル化とシミュレーションの必要性を考える | 1時間 |
| 事後学修 | 身近なことをモデルで考える | 2時間 |
| ２．モデル化の方法と種類 | | |
| 事前学修 | 数理モデルや概念モデルなどを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | モデルの用途を考える | 2時間 |
| ３．プログラムとアルゴリズム（1）プログラム開発と記述方法 | | |
| 事前学修 | プログラムとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 流れ図で理解する | 1時間 |
| ４．プログラムとアルゴリズム（2）処理の手順 | | |
| 事前学修 | 条件分岐やループ処理とは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | プログラムの内容を流れ図にして理解する | 1時間 |
| ５．VBA を使ったプログラミング（1）VBA の特徴と基本構文 | | |
| 事前学修 | VBAとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | VBAを実行する | 2時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 6．VBA を使ったプログラミング（2）シートを操作 | | |
| 事前学修 | Excelのシートがどのようなものか操作する | 1時間 |
| 事後学修 | VBAによって、シートを操作する | 2時間 |
| 7．VBA を使ったプログラミング（3）セルを操作 | | |
| 事前学修 | セル操作で自動化したいことを考える | 1時間 |
| 事後学修 | マクロを作成し、実行結果を確認する | 2時間 |
| 8．VBA を使ったプログラミング（4）変数の利用 | | |
| 事前学修 | 変数とは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 変数を使ったプログラムを書いて、実行する | 2時間 |
| 9．VBA を使ったプログラミング（5）条件文の実行 | | |
| 事前学修 | VBAの条件分岐について調べる | 2時間 |
| 事後学修 | プログラムを修正して、目的通りに動くがどうかを確認する | 2時間 |
| 10．VBA を使ったプログラミング（6）繰り返し処理の実行 | | |
| 事前学修 | ループ処理とは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | VBAでループを使ったデータ処理のコードを書き、実行する | 2時間 |
| 11．VBA を使ったプログラミング（7）ダイアログボックスの活用 | | |
| 事前学修 | ダイアログボックスとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | ダイアログボックスが出力できるようにする | 2時間 |
| 12．Excel を使ったデータベース（1）データの整理 | | |
| 事前学修 | Excelのフィルター、並べ替えなどの機能を調べる | 1時間 |
| 事後学修 | VBAで自動化してデータを整理できるようにする | 2時間 |
| 13．Excel を使ったデータベース（2）見やすい資料作成 | | |
| 事前学修 | Excelで見やすい表やグラフを作成する方法を調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 講義で実施した内容を振り返り、改善点を考える | 2時間 |
| 14．Excel を使ったシミュレーション（1）時系列データの分析 | | |
| 事前学修 | 時系列データとは何かを調べる | 1時間 |
| 事後学修 | 長期のデータを使って時系列分析を行う | 2時間 |
| 15．Excel を使ったシミュレーション（2）住宅ローン | | |
| 事前学修 | ローン計算について調べる | 2時間 |
| 事後学修 | 住宅ローンの返済シミュレーションを作成し、結果を分析する | 2時間 |

| 試験等 |
| --- |
| 最終レポート課題を提出 |
| 試験のフィードバックの方法 |
| manaba folio などで解説を掲載する。 |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 必要に応じて資料を配布する。 |
| オフィスアワー |
| 水曜日3限。またはメールで受け付ける。 |
| 連絡先 |
| daito@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| 身近な事柄と関連づけながら、積極的な参加を望む。<br>毎回USBメモリなどに作業内容を保存すること。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活経営論演習I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7350 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 豊田　尚吾 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | ２演習 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活経営論 | | | | |

本授業の概要

人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会及び人間生活を観察し、社会課題を取り上げたうえで、それを調査、分析提案（発表を含む）する力を養う。
特にデータを用いた仮説検証に力を入れる。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 1.経済学、経営学的方法論を習得し、適切なデータの解析ができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 2.社会課題に関する重要な論点を抽出し、言語化し、理論化できる。 | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業中の発表内容・姿勢（80%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（20%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務経験あり |

実務経験の授業への活用方法

長年、企業でビジネスに携わった経験を活かし、履修生の問題意識に現実性を加味するような指導を心がける。

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回　研究の方向性確認 | | |
| 事前学修 | 論文作成が目的であるため、少なくとも毎回1時間以上の準備は必要である。データの収集、既存研究のレビュー、考察、分析などに時間を費やす。授業はその報告とディスカッションの場に過ぎないことを理解すること。 | 1時間 |
| 事後学修 | 時間内の議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 2 回　発展研究（1）改善策 | | |
| 事前学修 | 前回の議論を踏まえ、改善策をまとめる。 | 1時間 |
| 事後学修 | 改善策に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 3 回　発展研究（2）取り組みの方向性明確化 | | |
| 事前学修 | 方向性を明確化し、それをプレゼンテーションできるようにしておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 研究の方向性に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 4 回　リサーチクエスチョンの明確化 | | |
| 事前学修 | リサーチクエスチョンが明確に相手に伝わるよう言語化しておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | リサーチクエスチョンに関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 5 回　ファクトファインディング　その1 | | |
| 事前学修 | 研究テーマに沿った様々なデータを収集しまとめておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 提示したデータなどに関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回　ファクトファインディング　その2 | | |
| 事前学修 | 前回の議論も踏まえ、より発展的なファクトの取りまとめを行っておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 今回のデータ提示に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 7 回　既存研究のレビュー　基本 | | |
| 事前学修 | 既存研究のレビューを行う。まずは基本的に抑えるべきものを取り上げる。 | 1時間 |
| 事後学修 | 基本文献についての発表内容に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 8 回　既存研究のレビュー　関連テーマ | | |
| 事前学修 | 論文に深く関連するテーマについてのレビューを行うための資料作成。 | 1時間 |
| 事後学修 | 関連論文に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 9 回　既存研究のレビュー　発展 | | |
| 事前学修 | さらに踏み込んだ論文を探索し、要点をまとめておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 発展的論文に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 10 回　データの分析（基本統計） | | |
| 事前学修 | 収集したデータを加工し、分かりやすい分析資料とする。 | 1時間 |
| 事後学修 | データ分析結果に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 11 回　データ分析　（発展的分析） | | |
| 事前学修 | 基本データ分析を踏まえたうえでさらなる追加的分析を行う。 | 1時間 |
| 事後学修 | 今回のデータ分析に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 12 回　独自理論モデルの提案　その1 | | |
| 事前学修 | 論文のベースとなるような理論モデルの提案を行う。 | 1時間 |
| 事後学修 | 理論モデルに関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 13 回　独自理論モデルの提案　その2 | | |
| 事前学修 | 前回の学びをふまえて、より水準の高い理論モデルを提示する。 | 1時間 |
| 事後学修 | モデルに関する時間内での議論をまとめ、論文に活用可能なコンテンツとする。 | 1時間 |
| 第 14 回　仮説の設定 | | |
| 事前学修 | 論文のコアとなる仮説を立て、論理的におかしなところはないかチェックする。 | 1時間 |
| 事後学修 | 提案した仮説に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 15 回　仮説の再提案 | | |
| 事前学修 | 前回の議論を踏まえ、独自性のある仮説を構築して発表できるようにする。 | 1時間 |
| 事後学修 | | 1時間 |

| 試験等 |
| --- |
| 期末レポート |
| 試験のフィードバックの方法 |
| manabaなどを用い、個人別にフィードバックする |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| なし |
| オフィスアワー |
| 月曜5限。変更があれば連絡する。 |
| 連絡先 |
| toyota@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| 自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活経営論演習II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7355 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 豊田　尚吾 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | ２演習 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活経営論 | | | | |

本授業の概要

人間生活の主要な基盤を構成する生活経営分野に関する演習を行う。経済学、経営学的な視点で社会及び人間生活を観察し、社会課題を取り上げたうえで、それを調査、分析提案（発表を含む）する力を養う。
特にデータを用いた仮説検証に力を入れる。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 1.経済学、経営学的方法論を習得し、適切なデータの解析ができる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力 |
| 2 | 2.社会課題に関する重要な論点を抽出し、言語化し、理論化できる。 | 思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 授業中の発表内容・姿勢（80%） | 1／2 |
| 2 | 期末レポート（20%） | 1／2 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | 実務経験あり |

実務経験の授業への活用方法

長年、企業でビジネスに携わった経験を活かし、履修生の問題意識に現実性を加味するような指導を心がける。

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 １ 回　研究の方向性再確認 | | |
| 事前学修 | 論文作成が目的であるため、少なくとも毎回1時間以上の準備は必要である。データの収集、既存研究のレビュー、考察、分析などに時間を費やす。授業はその報告とディスカッションの場に過ぎないことを理解すること。 | 1時間 |
| 事後学修 | 時間内の議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 ２ 回　ファクトファインディング　まとめ | | |
| 事前学修 | ファクトファインディングに関するまとめと追加情報を発表する準備を行う。 | 1時間 |
| 事後学修 | ファクトファインディングに関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 ３ 回　既存研究のレビュー　まとめ | | |
| 事前学修 | 必要な既存研究のまとめができていることを確認する。 | 1時間 |
| 事後学修 | 既存研究のレビューに関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 ４ 回　リサーチクエスチョンと論文の流れの整合性確認 | | |
| 事前学修 | リサーチクエスチョンと論文の流れが整合的であることを意識して資料を作成する。 | 1時間 |
| 事後学修 | リサーチクエスチョンに関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 ５ 回　理論モデルの妥当性確認 | | |
| 事前学修 | 研究テーマに沿った理論モデルとなっていることを説明する資料の作成 | 1時間 |
| 事後学修 | 妥当な理論モデルを整理し、今後の論文作成の糧とする。 | 1時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回　仮説の妥当性確認 | | |
| 事前学修 | 論文におけつ仮説設定の妥当性を説明する資料作成。 | 1時間 |
| 事後学修 | 仮説に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 7 回　独自データの収集 | | |
| 事前学修 | 仮説を検証するためのデータ収集状況をまとめておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | データの妥当性についての助言等を踏まえ、改善策を構築する。 | 1時間 |
| 第 8 回　活用データのまとめ | | |
| 事前学修 | 論文に活用するデータについてのまとめを行っておく。 | 1時間 |
| 事後学修 | 活用データについて、まとめたうえで整理しておく。 | 1時間 |
| 第 9 回　仮説検証・分析　その１ | | |
| 事前学修 | 収集したデータを用いて、仮説の検証を行う。 | 1時間 |
| 事後学修 | 指摘された問題点を次の発表に生かすよう、論点を整理する。 | 1時間 |
| 第 10 回　仮説検証・分析　その2 | | |
| 事前学修 | 前回の反省を踏まえ、より説得的な分析を行う。 | 1時間 |
| 事後学修 | データ分析結果に関する時間内での議論をまとめ、次回の発表の糧とすること。 | 1時間 |
| 第 11 回　仮説検証・分析　その3　まとめ | | |
| 事前学修 | 仮説検証の結論を導き、発表資料とする。 | 1時間 |
| 事後学修 | データ分析の結果として判明したことを要領よくまとめておく。 | 1時間 |
| 第 12 回　分析を踏まえた考察 | | |
| 事前学修 | 今までの研究、特に仮説の検証の結果を考察する資料作成。 | 1時間 |
| 事後学修 | 結果に対するコメントを次のまとめに生かすよう、要点をまとめる。 | 1時間 |
| 第 13 回　考察のまとめ | | |
| 事前学修 | 前回の学びをふまえて、より説得力のある考察とする。 | 1時間 |
| 事後学修 | 考察内容に関する時間内での議論をまとめ、論文の仕上げに取り掛かる。 | 1時間 |
| 第 14 回　結論の提示 | | |
| 事前学修 | 論文をまとめてどのような結論を得たのかについて説得的な文章化を行う。 | 1時間 |
| 事後学修 | 指摘された問題点に対する対策に取り組む。 | 1時間 |
| 第 15 回　研究論文の完成 | | |
| 事前学修 | 論文をまとめ、提出に耐える内容にまとめ上げる。 | 1時間 |
| 事後学修 | 最終的なチェック、修正を行う。 | 1時間 |

| 試験等 |
| --- |
| 期末レポート |
| 試験のフィードバックの方法 |
| manabaなどを用い、個人別にフィードバックする |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| なし |
| オフィスアワー |
| 月曜4限。変更があれば連絡する。 |
| 連絡先 |
| toyota@m.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| 自ら進んで課題に取り組む「積極性」が不可欠である。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 住環境特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7420 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 成清　仁士 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活環境論 | | | | |

本授業の概要

人が生活する上で大切な住環境・都市環境について講術する。歴史を振り返るこ
とを通して、これからの日本に求められる住環境を探求する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 発見学習 |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー<br>（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | これからの住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。 | 思考・判断・表現力 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を<br>総合して評価する。 | 1 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

第 1 回：授業ガイダンス

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | シラバスを確認し、授業の概要を把握しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

第 2 回：日本における住環境形成史−古代

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

第 3 回：日本における都市史−古代

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

第 4 回：日本における住環境形成史−中世

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

第 5 回：日本における都市史−中世

| | | |
|---|---|---|
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：日本における住環境形成史-近世 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 7 回：日本における都市史-近世 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 8 回：プレゼンテーション、講評 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 9 回：近代以降の住まい方論-戦前 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 10 回：近代以降の住まい方論-戦後 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 11 回：日本の都市計画の歴史-戦前 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 12 回：日本の都市計画の歴史-戦後 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 13 回：日本のまちづくりの歴史 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 14 回：日本のまちづくりの現在 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 15 回：定期試験 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

テーマごとに適宜、紹介・推薦する。

オフィスアワー

月3限

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 住環境特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7425 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 成清　仁士 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活環境論 | | | | |

本授業の概要

都市化・高機能化・超高齢化・少子化・景観・まちづくり等のキーワードをもとに、これからの日本に求められる住環境を探求する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 発見学習 |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | これからの住まい方・生活のあり方を提言できる能力・思考を修得する。 | 思考・判断・表現力 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 講義の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。 | 1 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |
| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 1 回：授業ガイダンス | | |
| 事前学修 | シラバスを確認し、授業の概要を把握しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 2 回：歴史的環境デザイン論の変遷–近世以前 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 3 回：歴史的環境デザイン論の変遷–近現代 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 4 回：歴史的景観とまちづくり | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 5 回：日本における歴史的景観とまちづくり | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：倉敷における歴史的景観とまちづくり-成果と課題 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 7 回：プレゼンテーション、講評 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 8 回：歴史的景観とまちづくりに係る考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 9 回：住環境をとりまく日本の状況変化-内的要因 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 10 回：住環境をとりまく日本の状況変化-外的要因 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 11 回：これからの住環境形成に向けた問題分析 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 12 回：これからの住環境形成に向けたディスカッション | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 13 回：これからの住環境形成に向けた展望 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 14 回：総括 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 15 回：定期試験 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

テーマごとに適宜、紹介・推薦する。

オフィスアワー

月3限

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

テーマごとの課題を講義ごとにとりまとめ、発表することも求める。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 食環境特論I | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7430 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 小林　謙一 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活環境論 | | | | |

本授業の概要

食環境の変容とメタボリックシンドロームとの関連性について論ずるとともに、「食」によるメタボリックシンドロームの予防・改善が可能かどうかについて考究する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | ディベート |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 生活習慣に起因する疾患の予防・改善が可能かどうかについて考究する | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 2 | 「食」によるメタボリックシンドロームの予防・改善に関する最新情報を入手し理解できるようになる。 | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 受講態度20点 | 1 |
| 2 | 論文読解20点 | 1 |
| 3 | 課題発表30点 | 1 |
| 4 | 課題レポート30点 | 1 |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：オリエンテーション | | |
| 事前学修 | 本科目のシラバスを熟読し、この科目の目指す目標などをあらかじめ理解しておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | オリエンテーションの内容を復習し、簡単な要約を作成するとともに、課題などの抽出を行いレポートとして提出する。 | 120分程度 |
| 第 2 回：メタボシックシンドロームとは | | |
| 事前学修 | メタボシックシンドロームに関する文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | メタボシックシンドロームに関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 3 回：メタボリックシンドロームと食生活 | | |
| 事前学修 | メタボリックシンドロームと食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | メタボシックシンドロームと食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 4 回：メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム | | |
| 事前学修 | メタボリックシンドロームとロコモティブシンドロームに関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | メタボシックシンドロームとロコモティブシンドロームに関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 5 回：メタボリックシンドロームとフレイル | | |
| 事前学修 | メタボリックシンドロームとフレイルに関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | メタボシックシンドロームとフレイルに関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：肥満と食生活 | | |
| 事前学修 | 肥満と食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 肥満と食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 7 回：糖尿病と食生活 | | |
| 事前学修 | 糖尿病と食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 糖尿病と食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 8 回：加齢・老化と食生活 | | |
| 事前学修 | 加齢・老化と食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 加齢・老化と食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 9 回：がんと食生活 | | |
| 事前学修 | がんと食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | がんと食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 10 回：慢性腎臓病と食生活 | | |
| 事前学修 | 慢性腎臓病と食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 慢性腎臓病と食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 11 回：肝臓病と食生活 | | |
| 事前学修 | 肝臓病と食生活に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 肝臓病と食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 12 回：ニュートリシューティカル概論 | | |
| 事前学修 | ニュートリシューティカルに関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | ニュートリシューティカルに関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 13 回：疾患予防・改善のための食生活（１）・・・薬理作用と食品機能性 | | |
| 事前学修 | 薬理作用と食品機能性に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 薬理作用と食品機能性に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 14 回：疾患予防・改善のための食生活（２）・・・ポリフェノール類について | | |
| 事前学修 | ポリフェノール類に関する文献を読み、内容についての発表を行うための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | ポリフェノール類に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 15 回：総括・・・食環境特論Ⅰ の講義内容を踏まえ、自身の身近な事象と関連付けながら1つのテーマを設定し発表する | | |
| 事前学修 | 食環境特論Ⅰ の講義内容を踏まえ、自身の身近な事象と関連付けながら1つのテーマを設定し、発表するための準備を行う。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 本講義での発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |

| |
|---|
| 試験等 |
| 最終課題レポート |
| 試験のフィードバックの方法 |
| 課題発表やレポートに対する講評を行う |
| 必携書（教科書販売） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| なし |
| 必携書・参考書（教科書販売以外） |
| 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 |
| |
| 国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。 |
| オフィスアワー |
| 月曜日4限目 |
| 連絡先 |
| k4kobaya@post.ndsu.ac.jp |
| 留意事項 |
| 特になし |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 食環境特論II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7435 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 小林　謙一 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | １講義 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活環境論 | | | | |

本授業の概要

食環境の変容と「こころ」との関連性について論ずるとともに「食」による「こころ」の病の改善・予防が可能かどうかについて考究する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | ディベート |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | 「こころ」に起因する疾患の予防・改善が可能かどうかについて考究する | 知識・技能／思考・判断・表現力／主体性 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 受講態度20点 | 1 |
| 2 | 論文読解20点 | 1 |
| 3 | 課題発表30点 | 1 |
| 4 | 課題レポート30点 | 1 |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：オリエンテーション | | |
| 事前学修 | 食環境特論II のシラバスを熟読し、本科目で取り扱う内容について予め理解しておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 食環境特論II のオリエンテーションの内容を再度見直した上で、本講義でどのような姿勢で臨むのかについて考える。 | 120分程度 |
| 第 2 回：「こころ」とは | | |
| 事前学修 | 「こころ」に関する文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 「こころ」に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 3 回：「こころ」の疾患について | | |
| 事前学修 | 「こころ」の疾患に関する文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 「こころ」の疾患に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 4 回：「こころ」と食生活について | | |
| 事前学修 | 「こころ」と食生活に関する文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 「こころ」と食生活に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 5 回：疲労について（疲労科学概論） | | |
| 事前学修 | 疲労科学に関する文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 疲労科学に関する発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：疲労と疾患との関連性 | | |
| 事前学修 | 疲労と疾患との関連を論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 疲労と疾患との関連についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 7 回：疲労と食生活について | | |
| 事前学修 | 疲労と食生活について論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 疲労と食生活についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 8 回：ストレスについて | | |
| 事前学修 | ストレスについて論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | ストレスについての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 9 回：ストレスによる疾患について | | |
| 事前学修 | ストレスによる疾患について論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | ストレスによる疾患についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 10 回：ストレスと食生活について | | |
| 事前学修 | ストレスと食生活について論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | ストレスと食生活についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 11 回：「こころ」と「からだ」を守る食品成分について | | |
| 事前学修 | 「こころ」と「からだ」を守る食品成分について論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 「こころ」と「からだ」を守る食品成分についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 12 回：栄養学とシステマティックレビュー | | |
| 事前学修 | 栄養学とシステマティックレビューについて論じた文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 栄養学とシステマティックレビューについての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 13 回：栄養学とAI | | |
| 事前学修 | 栄養学とAI技術についての文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 栄養学とAI技術についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 14 回：食生活と情報学 | | |
| 事前学修 | 食生活と情報学についての文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 食生活と情報学についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |
| 第 15 回：食品栄養学とウェルビーイング | | |
| 事前学修 | 食品栄養学とウェルビーイングについての文献を読解し、発表できるように準備するとともに、疑問点などを明確にしておく。 | 120分程度 |
| 事後学修 | 食品栄養学とウェルビーイングについての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。 | 120分程度 |

試験等

課題レポート

試験のフィードバックの方法

課題発表やレポートに対する講評を行う

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

国内外の学術論文を教材とし、適宜指示する。

オフィスアワー

月曜日4時限目

連絡先

k4kobaya@post.ndsu.ac.jp

留意事項

特になし

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活環境論演習Ⅰ | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7440 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第１期 |
| 担当者氏名 | 成清　仁士 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | ２演習 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活環境論 | | | | |

本授業の概要

人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、
快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 問題解決型学習 |

| 到達目標 | | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | これからの生活環境の在り方について、特論を展開できる能力を身につける。 | 主体性 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| 成績評価の基準 | | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。 | 1 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 1 回：研究テーマの設定 | | |
| 事前学修 | シラバスを確認し、授業の概要を把握しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 2 回：研究方法の検討-Ⅰ研究対象 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 3 回：研究方法の検討-Ⅱ着眼点 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 4 回：文献報告-要点整理 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 5 回：文献報告-考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：関連資料等の報告−要点整理 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 7 回：関連資料等の報告−考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 8 回：生活環境に関する問題分析 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 9 回：生活環境に関する考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 10 回：都市環境に関する問題分析 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 11 回：都市環境に関する考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 12 回：文献報告−視点の拡張 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 13 回：他研究内容の比較検討報告−要点整理 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 14 回：他研究内容の比較検討報告−考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 15 回：定期試験 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り帰り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

テーマ毎に適宜、作成したものを配布、または紹介・推薦する。

オフィスアワー

月3限

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

各自のテーマについて十分な考察を行い、その結果をとりまとめ発表する。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活環境論演習II | | | | 単位数 | 2単位 |
| 授業コード | M7445 | 科目ナンバリング | | 開講年度学期 | 2025年度第２期 |
| 担当者氏名 | 成清　仁士 | | | | |
| 時間割備考 | | | | | |
| 授業形態（主） | ２演習 | | | | |
| 授業形態（副） | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | |
| 研究分野（大学院） | 生活環境論 | | | | |

本授業の概要

人と住まいの生活環境、そしてその集合体でもある都市環境を研究対象として、
快適な住環境を創造するための諸問題を考察する。

| | |
|---|---|
| アクティブラーニングの実施内容 | 問題解決型学習 |

| | 到達目標 | 対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性） |
|---|---|---|
| 1 | これからの生活環境の在り方について、特論を展開できる能力を身につける。 | 主体性 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | 成績評価の基準 | 対応する到達目標の番号 |
|---|---|---|
| 1 | 演習の内容についての発表・口頭による論述内容・レポート課題・定期試験等を総合して評価する。 | 1 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験のある教員による授業科目 | |

実務経験の授業への活用方法

| | |
|---|---|
| 日本語以外の言語による授業 | |

| 授業予定一覧 | 事前・事後学修内容と時間 | |
|---|---|---|
| 第 １ 回：伐統的住まいに関する考察 | | |
| 事前学修 | シラバスを確認し、授業の概要を把握しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 ２ 回：建築技術等に関する考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 ３ 回：伐統的住環境づくりに関する考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 ４ 回：伐統的生活環境に関する検討報告−Ⅰ分析 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 ５ 回：伐統的生活環境に関する検討報告−Ⅱ考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

| | | |
|---|---|---|
| 第 6 回：生活環境に関する検討報告-Ⅰ分析 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 7 回：生活環境に関する検討報告-Ⅱ考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 8 回：論のとりまとめ・報告-Ⅰ研究成果 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 9 回：論のとりまとめ・報告-Ⅱ研究成果の意義 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 10 回：住環境に関する提案検討-Ⅰ分析 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 11 回：住環境に関する提案検討-Ⅱ考察 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 12 回：住環境づくりのとりまとめ・報告-Ⅰ提案 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 13 回：住環境づくりのとりまとめ・報告-Ⅱ残された課題 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 14 回：総括 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |
| 第 15 回：定期試験 | | |
| 事前学修 | 前回の授業を振り返り、自らの関心に応じて適宜情報検索しておく。 | 約30分 |
| 事後学修 | 授業を振り返り、自らの気づきや考えを整理する。 | 約60分 |

試験等

試験のフィードバックの方法

必携書（教科書販売）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

必携書・参考書（教科書販売以外）

書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

テーマ毎に適宜、作成したものを配布、または紹介・推薦する。

オフィスアワー

月3限

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

各自のテーマについて十分な考察を行い、その結果をとりまとめ発表する。